

三方五湖学習

三方五湖子どもラムサールクラブ

◇活動発表（全体会に参加）

3月21日（木・祝）に開催された三方五湖自然再生協議会全体会の冒頭で、三方五湖子どもラムサールクラブのクラブ員による活動報告がありました。同クラブは、平成30年5月に発足し、今年度は、三方五湖の水辺や周囲の水田、そして水源地のブナ林の観察等、7回のプログラムに取り組みました。クラブ員は、一年を通じて学んだことを絵に描いてまとめました。この日は、6人のクラブ員が全体会の冒頭で活動の成果を報告。たくさんの大人の前での発表は緊張もしたと思いますが、みんな頑張りました！



三方五湖自然再生協議会全体会で発表するクラブ員

三方五湖 ニュースレター



No. 18

平成31年3月25日発行

自然再生関連会議等開催情報

- ◆自然護岸再生部会
 - ・平成30年12月18日…研修会
 - ・平成31年1月23日…部会会議
- ◆湖と田んぼのつながり再生部会
 - ・平成31年1月31日、2月28日…部会会議
- ◆外来生物等対策部会
 - ・平成30年12月17日、平成31年1月25日、3月1日…部会会議
- ◆環境教育部会
 - ・平成31年2月28日…部会会議
- ◆シジミのなぎさ部会
 - ・平成31年2月19日…研究発表会、部会会議

三方五湖の自然とめぐみTOPICS

里山里海湖ブックレット



福井県里山里海湖研究所から『三方五湖のシジミ：シジミを知り味わい、シジミを通して歴史を学び、湖の将来を考える』が発刊されました。同研究所の宮本康研究員がこれまでの研究成果をまとめたものです。ご希望の方は同研究所にお問い合わせください（電話：0770-45-3580）。



三方五湖世界農業遺産審査・現地調査

三方五湖のなかまたち

ナマズ（ナマズ科）

- ・体長 50～60cm
- ・ほぼ日本全国の川や池、湖沼の底に生息する。
- ・小草の茂った場所や大きな石の影を好む。
- ・5月中旬～7月上旬に田んぼにきて産卵する。
- ・4本の長いひげをもち、大きな口で魚やカエル等を食べる。



問合せ先

- 福井県安全環境部自然環境課
〒910-8580 福井県福井市大手三丁目17番1号
TEL 0776-20-0305
- 美浜町住民環境課
〒919-1192 福井県三方郡美浜町郷市第25号25番地
TEL 0770-32-6703
- 若狭町環境安全課
〔三方庁舎〕
〒919-1333 福井県三方上中郡若狭町中央第1号1番地
TEL 0770-45-9126
- 若狭町歴史文化課縄文環境室
〔若狭三方縄文博物館内〕
〒919-1331 福井県三方上中郡若狭町鳥浜122-12-1
TEL 0770-45-2270

目次

- 公開シンポジウム、野鳥観察・市民参加型調査 …… 1
- 五湖のめぐみワークショップ …… 2
- 三方五湖学習、自然再生関連会議開催状況、自然とめぐみTOPICS、三方五湖のなかまたち …… 3

このニュースレターは「平成30年度生物多様性保全推進交付金（環境省）」を使用しています。

三方五湖 日本農業遺産 認定!

伝統的な農法や農村文化として認定する「日本農業遺産」に、三方五湖の伝統的な漁法を継承しているとして、平成31年1月24日、農林水産大臣によって認定されました。今回は国内で10か所の認定がありました。福井県内では初めての認定となります。

日本農業遺産は、伝統的な農林水産業を営む地域を認定することを目的としており、国連食糧農業機関（FAO）が認定する世界農業遺産の日本版として平成29年度から始まりました。今回認定されたのは、「三方五湖の汽水湖沼群漁業システム」の名称で三方五湖世界農業遺産推進協議会（会長：森下豊若狭町長）から申請されたものです。申請書では、三方湖のたたき網漁をはじめ、ウナギ筒漁、シジミ漁など、五湖それぞれの特徴に対応した伝統漁法が敬称されていることを骨子にとりまとめられています。



日本遺産認定の報を受けて祝う関係者

平成30年6月の書類審査提出後、8月に一次審査通過の報があり11月に審査員による現地調査がありました。現地調査では、審査員が三方五湖の現地をまわり伝統漁法を確認しました。その後平成31年1月の2次審査を経て、審査会により、①湖ごとに違う塩分濃度や水深などに対応した漁業が江戸時代から発展しながら根付いていること、②明治時代から漁協の前身組織をつくり漁獲制限など漁業資源保護を行ってきた歴史等が評価されました。

三方五湖の漁業が日本農業遺産に認定されたことで、今後、三方五湖地域のブランド力向上による農林水産業の発展や観光面での活用が期待できます。日本農業遺産の申請内容は、三方五湖自然再生協議会での活動と縁が深いものばかりです。今後、双方の力で自然再生と産業振興の進展が期待できます。



美浜(左)・若狭(右)の両町役場に掲げられた垂れ幕

[オジロワシとコハクチョウを観察しよう]

日時：平成31年2月3日（日）9:00～11:30
場所：三方湖周辺・ふゆみず田んぼ
講師：日本野鳥の会福井県嶺南ブロック会員
主催：福井県海浜自然センター
共催：若狭三方縄文博物館
連携：福井ライフ・アカデミー・福井大学CST
内容：越冬のため三方五湖に飛来した海ワシ（オジロワシ）が三方湖の上空を飛び回る様子を観察。



野鳥観察・市民参加型調査

1月19日（土）及び2月3日（日）に、冬の鳥類について学ぶ講座が開催され、県内外から親子連れが参加し、湖や周辺水田等で過ごすカモ類や、オジロワシを観察しました。

[ビギナーのための探鳥会 in 久々子湖]

日時：平成31年1月19日（土）9:00～11:30
場所：久々子湖
講師：日本野鳥の会福井県嶺南ブロック会員
主催：福井県海浜自然センター
共催：美浜町生涯学習まちづくり委員会、美浜環境パートナーシップ会議
協力：美浜町生涯学習課、美浜町住民環境課
連携：福井ライフ・アカデミー・福井大学CST
内容：久々子湖と周辺水田にて、飛来しているカモ類等を見分けながら、久々子湖におけるカモ類の多様さを観察

三方五湖自然再生協議会 平成31年度全体会開催

平成31年3月21日（祝・木）に、福井県立三方青年の家において平成30年度三方五湖自然再生協議会全体会が開催され、関係者60名が会議に出席しました。

今回の全体会では、今年度の自然再生事業の進捗状況や成果と、三方五湖世界農業遺産推進協議会から日本農業遺産の認定について報告がありました。会議には、環境教育部会から三方五湖子どもラムサールクラブの子供たちによる発表や、外来生物等対策部会では若狭高校の高校生による研究発表もありました。



全体会の様子

全体会での報告から ◆三方湖のヒシ対策◆

三方湖では、水草の“ヒシ”が平成20年頃から急激に増加しており、自然再生事業実施計画においても三方湖のヒシの適切な管理の推進とモニタリングの実施を掲げています。近年は、福井県里山里海湖の石井潤研究員が中心となり鳥浜漁協の協力を得ながら対策方法の検討が行われてきました。

平成30年度は、これまでの研究成果をもとに、福井県から（NPO）世界に誇るラムサール湿地三方五湖を育む会に委託し、ヒシの「ワイヤー刈り」の本格導入が試みられました。平成30年度は、198.4haのヒシがワイヤー刈りにより、また、14.1haのヒシがヒシ刈り専用機械によって刈り取られました。

全体会では、外来生物等対策部会事務局より、今年度のモニタリングによって、ワイヤー刈りの有効性が確認できたことが報告されました。

ヒシ刈り専用機械によるヒシの刈り取りの様子(左)と専用機で刈り取った範囲(右)



[全体会次第]

1. 開会 あいさつ 会長 鷺谷いづみ（中央大学教授）
 2. 来賓 あいさつ 美浜町 副町長 西村正樹 氏
 3. 内容
 - (1) 前回議事録の確認
 - (2) 平成30年度活動報告及び平成31年度活動計画
 - ・環境教育部会
三方五湖子どもラムサールクラブ活動発表
(三方五湖子どもラムサールクラブ・クラブ員)
 - ・外来生物等対策部会（外来種対策、ヒシ対策）
三方湖におけるミシシippiaカミミガメの生態調査
(若狭高校)
 - ・自然護岸再生部会
 - ・湖と田んぼのつながり再生部会
 - ・環境に優しい農法部会
 - ・シジミのなぎさ部会
 - ・三方五湖自然再生協議会（全体）
 - (3) その他
- [報告]
- ・国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）の連携事業の認定表彰
 - ・日本農業遺産の認定
4. 閉会 あいさつ 副会長 吉田丈人（東京大学准教授）
副会長 青海忠久（福井県立大学名誉教授）

◆今後の検討課題（候補）

- ゴーニングの見直し
- ヒシの刈り取り場所や優先順位等の方針の検討
- ヒシによる被害状況の再調査および刈り取り場所のヒアリング
- ヒシの流出防止対策
- 回収したヒシの処理方法の検討

◆平成31年度事業計画（案）

- ヒシの調査…埋土種子調査、水質調査等
- ガイドラインの活用推進…調査による検証、ガイドラインの見直し

